

令和2年度徳島市八万中学校総括評価表

学校教育目標 : 人権を尊重し、豊かな人間性を持ち、心身ともにたくましく未来に向かって生きる生徒の育成 (今年度の重点目標) ~よりよい自分 よりよい八中~ 1 豊かな心の育成 2 たくましく生きる力の育成 3 豊かな学力の育成 4 家庭・地域との連携				
本年度の重点目標 【評価項目】	具体的な活動計画 及び 【評価指標】	自己評価 達成状況と実施状況	学校関係者評価 評定 意見	次年度への 課題と改善策
1 【豊かな心の育成】				
①他人を思いやる心 や感動する心の育 成。	①年間計画に沿った、道徳・人権 の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、 全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課 題について話し合い、解決策を検 討する。	【評価指標】 ・友達や自分 を大切にでき る生徒が85 %以上。	A	・各教科等との関連を図っ た指導と体験活動など、さ まざまな角度から、人権教 育の視点を取り入れること が重要と考える。その中で、 知的理解にとどまらずに、 生徒自らの心の変容につい て十分に振り返る時間を設 定する必要がある。そして、 級友と共有することで 人権尊重の精神を、少しで も高めることができると考 える。
②人権尊重の精神の 育成。	④アンケート調査や教育相談等を 通して、生徒の人間関係の状況や いじめにつながる事案等の把握に 努める。	【評価指標】 ・生徒の人権 意識を高める 指導をしてい ると感じている 保護者が 80%以上。	A	・自分のまわり の人の人権を大 切にして生活で きていると実感 している生徒が 93%と、高評 価となっている。 人をいたわり 慈しむ心が育っ て欲しいと感じ る。
2 【たくましく生きる力の育成】				
①仲間と共にさらに 良くなろうと、問題 解決を図る力の育 成。	①互いの良さを認め合えるよ うに、常時指導を行 う。 ②組織的に対応ができるよ うに、「報・連・相」 の周知徹底を行う。	○学校のルールを守り、同じ学 校の友達とより良い学校生活 を送ることができたと感じ ている生徒が、(あてはまる・ 少しあてはまる) 含め96%と なっている。 また、(あまりあてはまら ない・あてはまらない) と感 じている生徒は4%であった。 学校という社会の中で、より 良い人間関係を保ちながら、 賢明に生きている様子が伺 える。	A	・「みんなが気持ちよく学 校生活を送るため」には、 自己を大切に感じられるよ うにすること。また、集団 の中で他者も大切に感じ、 他者と共に生活していくた めの、ルールを守る必要 性があるということ認識し ないといけない。 機会ある度毎に、周知等 必要である。
②望ましい集団活動 を通して、生き方 について自覚を深 める。	③学校行事の中で、生徒一人 一人の力を伸ばし、 粘り強く育てる。 ④行事・体験活動の実践を行 う中で、生徒会活動 の充実と推進を図る。 【評価指標】 ・学校のルールを守り、友 達と共により良い学校生 活を送る生徒が85%以上。	○授業を通して基礎的な知識 や技術を身につけることが できたと感じている生徒が、 (あてはまる・少しあては まる) 併せて88%であった。 逆に、(あまりあてはまら ない・あてはまらない) と感 じている生徒は11%とな った。	A	・法律、学校家 庭のきまり、交 通規則等、さま ざまな規則が社 会には溢れてい る。社会に生き る全ての人 ができる限り互 いを傷つけるこ となく共に生き ていくことが できるような社 会を望む。
3 【学力の育成】				
①与えられた課題や 小テストに意欲的 に取り組み、基礎 学力の定着を図 る力の育成。	①各教科で、生徒に身につけ させるべき基礎学力 の内容と取組方法を 明確にする。 【評価指標】 ・授業を通して基礎的な知 識や技術が身に ついたと感じ ている生徒が 80%以上。	○授業を通して基礎的な知識 や技術を身につけることが できたと感じている生徒が、 (あてはまる・少しあては まる) 併せて88%であった。 逆に、(あまりあてはまら ない・あてはまらない) と感 じている生徒は11%とな った。	A	・授業準備をし てチャイム着席 ができている、 チャイム着席が 自分の意思で できている生徒 が、高評価とな っている。先生 等から時間を 守らせること から、自分の 意思で行動し、 責任が持て ている。 ・自尊感情を 育む点にお いても、自 分の考えを他 人に説明したり、 文章に書いたり することは重 要であり、是非 とも、苦手意 識から脱却さ せることを望 む。
②目的や場面に 応じ、適切に話 したり聞いたり 話し合ったりし て、自分の考え を豊かに表現す る力の育成。	②相手意識・目的意識・場面 意識・方法意識・時 間意識・評価意識に 配慮しながら、指 導を行う。 【評価指標】 ・自分の考えを 他人に伝えたり、 文章に書いたり することは得意 であると感じ る生徒が70% 以上。	○自分の考えを他の人に説明 したり、文章に書いたりする ことが得意であると感じて いる生徒が、(あてはまる・ 少しあてはまる) 含めて47% であった。音声言語による 表現力の育成が かなり必要と考 える。	C	・文章を多く書 く。それに加 え、他人の文 章をどのよう な表現の工夫 をしているの か、意識しな がら読む機 会を多く持つ。 それにより、 自分の感想を コンパクトに 分かりやすく 伝えられる。 ・チャイムを 意識しての着 席、学級で声 の掛け合い をしながら できている。 教員側も、 チャイムと 共に始めると いう姿勢が 大切であり、 ひき続き実 行するように 心がける。
③授業の準備・ チャイム着席が でき、チャイム とともに授業 を始めることが できる。	③全教職員の共通理解のもと、 生徒に意義等を周 知徹底し指導を行 う。 【評価指標】 ・授業等、チャ イムスタート できている生 徒が85%以上。	○授業準備をしてチャイム着 席ができている生徒が、(あ てはまる・少しあてはまる) 含めて95%であった。 また、自分の意思で実行 できている生徒も、89% であった。	A	・年度当初より、 学校便り、HP 等で、さまざま な情報を伝 えているが、 受け取る側 の意識も重 要となる。 ・地域への行 事参加や地 域の人材活 用に関しては、 今年度の新 型コロナウ イルス感染 症防止の事 情もあり、 難しいと感 じる。令和 2年度は、 コロナウ イルス感染 症の懸念の こともあり、 できていな い活動もあ った。
4 【家庭・地域との連携】				
①オープンスク ールや日々の 教育活動につ いて、適切に 情報発信す る。	①開かれた学校として、HP・ 学年だより・学 校だより等を 発行し、学校 の様子を発信 する。 【評価指標】 ・学校は、保 護者に学校の 様子をHP・学 校だより・学 年だより等 でよく伝え ることができ ていると感 じている保 護者が85% 以上。	○学校は、保護者に学校の様 子をHP、学校学年だより等 で、よく伝えて いると感じ ている保護 者が、(そ う思う・や やそう思 う) 含め、 83%であ った。HP、 学校便り で、行事 等が行わ れる度毎 に更新発 出してい るので、 そのよう な現状を、 更に面 談等で 伝えるこ とを心 がける。	B	・地域のクリー ン作戦や読 み聞かせ・ ゲストティー チャーを招 いた活動 を行っている 現状を周知 する。しか し、令和 2年度は、 コロナウ イルス感 染症の懸 念のこ ともあり、 できてい ない活 動もあ った。
②地域の教育 力を活用す る。	②地域の行事への積極的 参加や人材活 用により、地 域の持つ教 育力を積極 的に取り入 れる。 【評価指標】 ・学校は、地 域行事への 参加や地域 の人材活用 など、地域 との連携が 図られてい ると感じ ている保 護者が85% 以上。	○学校は、地域行事への参加 や地域の人材活用など、地 域との連携が図られて いると感じ ている保護 者が、(そ う思う・や やそう思 う) 含め て、71% であ った。本 年度は、 感染症の こともあ り、地域 のクリー ン作戦・ 読み聞か せ等、中 止とな ったこ との影 響も大 きいと 考 える。	B	・地域のクリー ン作戦や読 み聞かせ・ ゲストティー チャーを招 いた活動 を行っている 現状を周知 する。しか し、令和 2年度は、 コロナウ イルス感 染症の懸 念のこ ともあり、 できてい ない活 動もあ った。

「評定」の基準 A: 十分達成できた B: おおむね達成できた C: 達成できなかった

